

シグマ研究委員会
3年度第3回運営委員会議事録(案)

日時： 1991年9月12日(木) 13:30~17:30

場所： 日本原子力研究所本部 第3会議室

出席者： 中嶋(法大)、北沢(東工大)、吉田(東芝)、瑞慶覧(日立)、
平岡(金子代理)、菊池、前川、長谷川(以上原研)

幹事： 中川、中島(原研)

オブザーバー： 松延(住友原工)、岸田(CRC)、川合(東芝)、岡本(原産)、
馬場(東北大)

配布資料

1. 平成3年度第2回運営委員会議事録(案)
2. 平成3年度シグマ特別専門委員会・シグマ研究委員会本委員会議事録(案)
3. The NEA Nuclear Science Program and the NEA NSC(Statement by the NEACRP)
4. Specialists' Meeting on Fission Product Nuclear Data(First Circular)
5. Draft Program for 92BNL
6. 高エネルギー核データ専門家会議プログラム(案)
7. 1991年核データ研究会準備状況と1991年核データ研究会プログラム(案)
8. WRENDA 91/92の作成について(案)
9. JENDL-3の問題点
10. 「シグマ委員会」における核データ収集・評価の活動(平成1、2年度の作業報告)
11. 29回NEANDC会合におけるトピカルコンファレンスに関するS.Cierjacks氏から菊池氏へのファックス

議事

I. 議事録確認

前回6月13日の議事録(配布資料1)を確認した。

平成3年度シグマ特別専門委員会・シグマ研究委員会本委員会議事録(配布資料2)を確認した。

II. 報告事項

1. NEACRP会合報告

平岡氏が9月に開かれたNEACRP34回会合について次の通り報告した。組織変更についての議論が主であった。NEA Deputy DirectorのJohnny Rosen氏から経過報告があり、大勢としては組織変更を受け入れ、NSCに注文をつけるという姿勢であった。議論の結果配布資料3のステートメントを発表した。

またこれに関連して、菊池氏から10月に開催されるNEANDCは従来のままの形式で会合を開くことになっているとのコメントがあった。

2. IAEA NDSの近況について

夏にIAEAを非公式に訪問した岡本氏からIAEA NDSの近況について概略次の通り報告があった。IEAE NDSのHeadのJ.J. Schmidt氏は11月に停年退職する。後任には日、独、ソ連から各一名の応募者があり、選考中である。

3. NEANDC主催FP核データ専門家会議の開催について

菊池氏がNEANDC FP核データ専門家会議について次の通り報告した。First Circular (配布資料4)をNEANDC委員とプログラム委員に配布した。IAEA NDSからIAEA CRP on Compilation and Evaluationとこの会議のテーマが一部オーバーラップするとの指摘があり、調整中である。

4. 92BNLについて

菊池氏から1992年秋米国BNLで開催される「International Seminar on Nuclear Data Evaluation Methodology」(92BNL)に関して、前回の運営委員会での意見(会議の期間が長過ぎる)をBNL NNDC C.Dunford氏に伝えたこと、最近Draft Program for 92BNLとSession Details(配布資料5)が送られてきたことが報告された。それによると依然5日間のプログラムになっている。

5. NEANDC会合でのトピカルコンファレンスについて

菊池氏から10月に開催されるNEANDC29回会合で核融合炉技術に必要な核データと題するテーマでトピカルコンファレンスが開かれる、Contributionを出したい人は9月18日までにTitleとAuthor(s)を菊池氏まで連絡して欲しいとのアナウンスがあった。(配布資料11)

Ⅲ. 審議事項

1. 高エネルギー核データ専門家会議開催について

10月3日、4日に開く上記会議のプログラム(配布資料6)について中島氏が説明した。また会議の参加予定者は原研外31名、原研内17名で、合計48名の予定であることを報告した。

2. 核データ研究会について

馬場氏が1991年核データ研究会の準備状況を配布資料7により次の通り説明した。前回の運営委員会での実行委員の決定を受けて、6月26日と7月22日に実行委員会を開き、論文公募などのアンケート結果をもとに、プログラム案を決定した。プログラム案は「高エネルギー核データ専門家会議」との重複を避けることを基本方針とし、a)JENDL-3と特殊目的核データファイルの現状、b)核反応理論の進展、c)中高エネルギー核データ、d)核データ評価の新しい手法(知識工学の利用)、e)炉物理の話題、f)トピックス、g)ポスターセッションから成っている。石井委員長からポスターセッションに一工夫が必要であるとのコメントがあった。

3. WRENDA について

WRENDA 91/92作成ためWRENDAに既に載っているリクエストのチェックと新しいリクエストの調査依頼がきており、中島氏がそれに関して配布資料8により次の通り提案した。
1)古いリクエストのチェックはリクエストした人に依頼する。2)新しいリクエストはアンケートにより調査する。3)WRENDAグループの会合を2~3回開き日本からのリクエストを決

定する。4)WRENDAグループのメンバーは前回のグループ会合時点のままなので、現時点で見直しをし、新たに決定する。

これを承認するとともに、次の各氏をWRENDAグループの委員として決定した。松延廣幸（住友原工）、真木紘一（日立）、井頭政之（東工大）、佐々木誠（三菱原子力）、池田裕二郎（原研）、片倉純一（原研）、川合將義（東芝）、平山英夫（高エ研）、高野秀機（原研）、中島豊（原研）。高エネルギー核データ関係者として岸田則生氏（CRC）または深堀智生氏（原研）、測定関係で小林捷平氏（京大炉）、ENSDF関係で天道芳彦氏（理研）が推薦されたが、決定は事務局に一任された。

4. 2年報について

2年報の原稿の「はじめに」の部分（配布資料10）について吉田氏が編集委員会案を提案し、一部字句を修正して承認した。

4. JENDL-3の修正について

中川氏がJENDL-3の問題点の調査結果（配布資料9）を説明し、JENDL-3の修正について次の通り提案した。核データ専門部に重核データと γ 線生成データ再評価のためのWGを設置し、1992年度末をめどに、JENDL-3の修正作業を行う。検討の結果この方針が承認された。またWGの構成は核データセンターで決定することとした。

5. その他

菊池氏から次の通りアナウンスがあった。HEDLのFrederick Mann氏が10月初旬から11月初旬まで原研に滞在する。それに合わせて、ESNIT関係の核データに関するワークショップが10月7日（月）に開催される。

IV. その他

次回は12月12日（木）とする。

Action List

| No. | 担当者 | 内 容 | 期 限 |
|-----|-----|--------------------------|-----|
| 1 | 事務局 | WRENDAメンバーの決定。 | 早急 |
| 2 | 事務局 | JENDL-3再評価のためのWGのメンバーの決定 | 早急 |
| 3 | 全員 | 原子力学会特別会合のテーマについて提案 | 次回 |